

# 明治維新から150年 坂本龍馬と由利公正を偲ぶ

富山短期大学名誉教授 川中清司

## 明治維新から150年

明治維新から150年。当時、新しい日本を目ざして命をかけた坂本龍馬と、由利公正らの姿を描く新しい手紙が発見された。いづれも龍馬が暗殺された慶応3（1867）年11月15日の間近に書かれたもので、激動する転換期に立って、新しい国づくりの構想に燃え情熱があふれている。それは現代のわれわれに、大きな示唆を与えてくれる。

## 慶応3年・幕政終わる

慶応3年10月13日、15代将軍徳川慶喜は、二条城に40藩の重臣を集め、大政奉還を表明。翌日、朝廷に政権を返上する旨の上表を提出した。12月9日、朝廷は「王政復古の大号令」を発表。幕府を廃止して新政府を樹立し、松平春嶽が総裁となった。260年の幕府政治は終わった。世にいう「明治維新」は「慶応維新」といってもよい。旧幕府勢力による鳥羽伏見の戦い、戊辰戦争から函館戦争（明治2年終結）まで続くが、幕政はすでに終わっていた。

幕末の年賦

和 暦	西 暦	出 来 事
安政5	1858	安政の大獄 井伊大老による肅正
元治1	61	蛤御門の变 ・第1次長州征伐
慶応2	66	薩長同盟が成立 ・第2次長州征伐
慶応3	67	新政府綱領八策 ・二条城で大政奉還 坂本龍馬暗殺 ・王政復古の大号令
慶応4	68	鳥羽伏見の戦い ・戊辰戦争始まる
明治1		五箇条の誓文発布 ・新政府基本方針発表
明治2	69	函館戦争 ・戊辰戦争が終結

## 一世一元は明治から

慶応は、江戸時代最後の36番目の元号だ。天皇一元号は明治から始まっている。それ以前は何回も改元された。孝明天皇は在位21年の間に、嘉永、安政、万延、文久、元治、慶応の6回。慶応2年12月25日に崩御され、翌年1月9日に明治天皇が14歳で践祚、慶応4（1868）年8月27日に即位の礼をし、9月8日に明治に改元している。さらに改暦詔書を出して「明

治5年12月3日をもって明治6年1月1日」とし、太陽暦も導入した。

## 越行の記

坂本・由利会談で新国家を議論  
坂本龍馬の書いた手紙は、140通ほど存在するといわれる。その中でも「越行（えつゆき）の記」は、土佐藩の重臣、後藤象二郎にあてたもので、龍馬が越前藩士の三岡八郎（後の由利公正）と会った内容が記されており、龍馬が暗殺される10日以前に書かれた。

739文字の内容は、大政奉還後の日本国および新政府の財政計画や人材に関して述べられている。2014年に見つかった貴重な資料だ。

## 三八を新政府に推挙

手紙には、福井藩の財政を立て直した三岡八郎との財政や産業の議論や、これらを任せられるのは三八（三岡八郎）のほかには、「金銀物産とうの事を論じ候には此の三八を置かば他に人なかるべし」と強く推挙している。「三八」と略して親しさがあふれ、いかに龍馬らしい奇抜さが感じられる。

由利は後に明治政府で太政官札の発行など、国家の屋台骨を築く。まさにこの会談こそが、現代的な貨幣経済の出発点であった。

### 三度目の越前訪問 由利と懇談

慶応3年11月1日、龍馬が三度目の福井藩訪問の際、松平春嶽に会って大政奉還が決まったことを告げ、後藤象二郎から預かった山内容堂が春嶽に宛てた、上洛要請の書簡を渡した。翌日、龍馬は福井城下の山町の苺屋旅館に由利公

正を招いた。当時、由利は藩主の上洛などの政策で支持が得られず謹慎処分中で、立会人の藩士が同席した。そんなことには一向に傾着せず、何の遠慮もなく閑談した。

### 財政改革と殖産語り合う

二人は4年ぶりの再会を喜び、辰の刻(午前8時)から子の刻(深夜0時)まで話し合った。「苺屋に這入って、龍馬と叫んだら、ヤゝ嘶す事が山程あるといふ、直に天下の事成就とおもわれた」と、由利公正伝に伝えている。由利は福井藩で行った藩札5万両の発行と、財政改革や殖産振興の経過を熱く語り、国内の通貨の統一を説く。「国中で使う金を統一する」通貨とはどういうもんじゃ」「紙幣がいい」「そんなの信用されんじやろうが」「国民が政府を信用すればできる」。龍馬は目をむいて大きくうなずいた。

### 民富論の実践に感動

由利の説く理念には、横井小楠の教え「経世済民」「乱れた世を整え、苦しんでいる民を救う」が根底にある。すでに「主権在民」

の思想が芽生えていた。龍馬は「民富めば国富む」という民富論の実績を聞いて感動した。「新政府の財政は火の車じゃ。ここはひとつおまはんにとのむぞよ」。二人は固く手を握りあった。

### 龍馬の最後

龍馬が福井を去ってから2週間あとの11月15日。由利は城下毛矢の屋敷を出て足羽川畔を歩いていった。不覚にも懐に入れていた龍馬の手紙と写真を落とし、さっと吹いた一陣の風にさらわれた。「今日は龍馬の誕生日。だが、もしかして……」不吉な予感がよぎった。まさにその日、龍馬は京都河原町蛸薬師・近江屋の2階で凶刃に倒れたのだった。

### 新発見・中根雪江へ書簡

#### 春嶽の上京を喜ぶ

2017年1月、高知県が新しく見つけた龍馬の書簡を発表した。龍馬暗殺の5日前の11月10日に、松平春嶽の側近の中根雪江に宛てて書かれたものだ。内容は大政奉還を受け、11月8日に松平春嶽が京都に到着したことを喜ぶというもの。「此の度、越前老公(松

平春嶽のこと)御上京相成り候段、千万の兵を得たる心中に御座候」。春嶽の上京には中根雪江の強いすすめがあった。

### 中根雪江に三岡の出仕を懇願

手紙には「新国家」という言葉を使い、その財政担当者として推挙した福井藩士三岡八郎(由利公正)の上京が遅れているため、早急に許可するよう、「三岡兄の御上京が一日先に相成り候得は、新国家の御家計御成立が一日先に相成候」と懇願している。

この資料から、龍馬が新しい政治の実現に向けて、福井藩関係者の人脈を渴望していたことや、福井藩の存在感がうかがえる。

### 春嶽への大きな期待

この時期は大政奉還直後の混乱の最中で、諸大名から新国家への支持と協力を取り付けることが、龍馬の重要課題であった。激動する情勢を見とおせず、各藩が去就に迷うなかで、徳川親藩であり、名君の誉れ高い福井藩主の松平春嶽が、朝廷の命に応じて京都に上ったことは、極めて心強い援軍

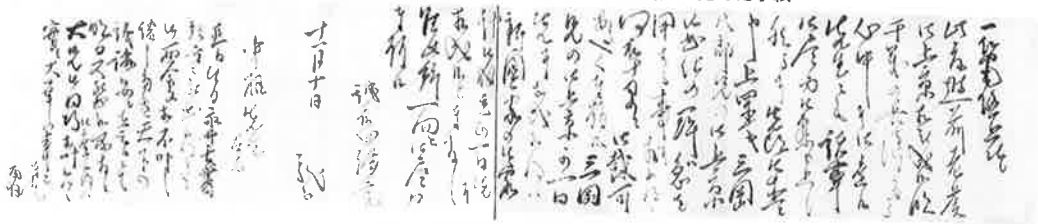


坂本龍馬



由利公正

出典・福井郷土歴史博物館資料



出典・福井郷土歴史博物館資料

であった。

### 新国家計画が暗殺へ NHKスペシャル

NHKスペシャルで放送された「龍馬の最期の30日」(2017年11月19日)は、常に身の危険を感じながらも、命を懸けて闘った日々を、新資料を踏まえた仮設にもとづいて、スリリングなドラマとして描かれた。龍馬が抱いていた「新国家計画」こそが、龍馬暗殺の引き金になったとし、さらにこの手紙の新国家の盟主は「○○○」と書いているのは、福井藩主の松平春嶽だったという流れで作られていた。

### 後藤に切腹迫る親書

今回見つかった手紙とは別に、慶応3年10月13日付けで後藤象二郎にあてた手紙に大きな関わりがある。徳川慶喜が諸藩の重臣を二条城に集めて、大政奉還についての諮問会議を行う直前。「大政奉還が失敗したら、後藤先生は二条城で切腹してください。自分たち海援隊も慶喜の帰りを待ち伏せて襲いかかります。地下でご面会しましょう」と書いている。

### 新政府綱領 八策

龍馬の船中構想

慶応3年6月、龍馬は長崎から兵庫に向かう土佐藩の汽船「夕顔丸」の上で「船中八策」を後藤象二郎に説いた。藩主山内容堂に大政奉還を説得させるためだ。「天下の政権を朝廷に奉還せしめ、政令よろしく朝廷より出づべき事」大政奉還を前提に、「上下議政局を設け議員を置き、万機よろしく公論に決す」議会の開設を目ざす。官制の刷新、外国と広く交際、法典の制定、海軍の拡張、親兵の設置、貨幣の整備などの構想が盛り込まれていた。

### 土佐藩主が大政奉還を建白

後藤は、この大政奉還と公儀政体論に共鳴し、山内容堂もその進言を受け入れた。6月2日、京都の料亭に薩摩藩の西郷隆盛、土佐藩は後藤象二郎などが集まり、龍馬も陪席した会談の結果、盟約が成立した。10月3日、土佐藩から幕府に「大政奉還建白書」を提出し、事態は一気に進んだ。14日、將軍徳川慶喜は大政奉還を朝廷に上奏し、翌15日に勅許された。さ

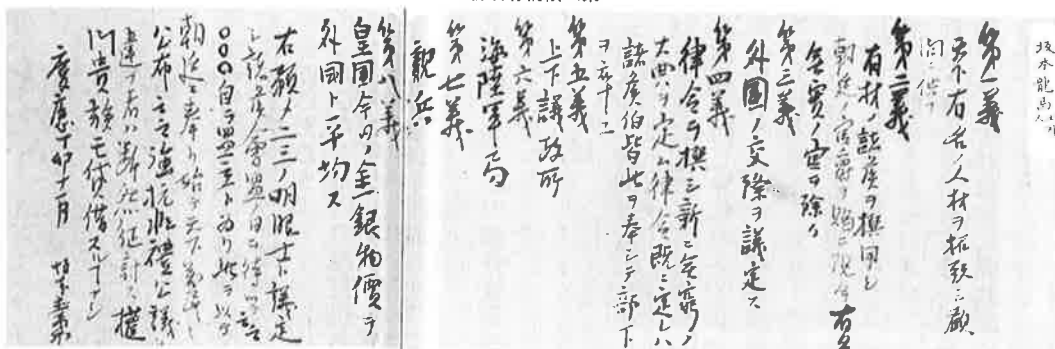
らに11月に、龍馬は「新政府綱領・八策」を書いている。

### 次期総理名も記す

「新政府綱領八策」には、大政奉還後の新政府の施政方針の具体策が描かれ、次期総理の名が伏せ字「○○○」で記されている。「幅広い人材の登用、名ばかりの役職を廃止」「両院議会政治の導入」「無窮の大典・憲法の制定」「陸海・親兵を組織」「外国との交換レートの変更」などだ。その内容は明治維新政府の参与となった由利公正が作成した「議事之体大意」や「五箇条の誓文」と類似していて、龍馬の描いた新政府の理想が受け継がれている。

### 政府の指針 五箇条の誓文

明治元年3月14日、明治天皇が明治政府の基本方針として示したのが「五箇条の誓文」である。京都御所・紫宸殿の儀式で示され公布された。誓文は明治元年に由利公正が起草した「五箇条の誓文」が基となった。「広く会議ヲ興万機公論ニ決スベシ」から始まり、「旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ



出典・福井郷土歴史博物館資料

基ズクベシ」と、新しい政治の基  
本を示している。

### 由利公正の生涯

#### 松平春嶽の人材登用

松平春嶽は天保9（1838）  
年に11歳で越前藩主となったが、  
当時の借財は90万両を超え、藩の  
年収入4万両の22倍超。16歳でお  
国入りし「藩内をよくするには、  
人材の活用が第一」と考えた。従  
来の門閥にとらわれず、実力のあ  
る人物を積極的に登用して藩重臣  
の人事も刷新した。鈴木主税を頭  
取に抜擢、25石の橋本左内を教育  
の刷新や幕政改革に起用、100  
石の三岡八郎を財政の建て直しに  
当てらせ、効果を上げた。

#### 殖産奨励で財政建て直し

由利公正は文政12（1829）年、  
福井藩士・家禄1000石の長男と  
して生まれた。武道に熱心で、剣  
術、槍術、鉄砲術、馬術に優れ、  
藩の馬揃えでいつも活躍した。

横井小楠から財政学を学び、民  
富の思想を受け継いだ。藩札の発  
行と物産の専売制を結びつけた、  
殖産興業政策を推し進めた。横井  
とともに西国各地へ出張し、長崎

で藩の蔵屋敷を建て、オランダ商  
館と生糸販売の特約を結んだ。こ  
うして見事に藩財政を建て直した。

### 龍馬との約束果たす

由利公正は、坂本龍馬の「船中  
八策」を活かして、五箇条の誓文  
の起草にも参画した。明治に入り  
公明正大を誓って、名を三岡八郎  
から「由利公正」と改めた。慶応  
3年10月、大政奉還で樹立した新  
政府に招かれ、「参与・御用金穀  
取扱」（財務大臣）に任命された。  
軍備、官吏制度、教育、通信、交  
通など、やるべき事業は山ほどあ  
るが、資金はまったくない。30  
00万両（推定1500億円）の  
太政官札を発行し、財政の基礎を  
つくり、龍馬との約束を果たした。

### 自治発展 殖産に尽力

由利公正は明治4年、東京府知  
事に任命され、翌年、遣米使節と  
ともにアメリカに渡る。岩倉具視  
らとヨーロッパにも渡り、自治制  
度や議会制度を研究した。民撰議  
院設立建白書の提出など、自由民  
権運動に助力し、日本興業銀行の  
設立運動を進めた。福井藩の教育

近代化に尽力し、米国人グリフィ  
スを招聘した。萬年会という勸農  
組織に協力して、乳牛飼育を試み  
た。後に元老院議員となり、子爵  
を授かった。明治42（1909）  
年4月28日、81歳で生涯を閉じた。

### アイデアと実行力

黒船来航に備え、いち早く火薬  
の開発を行い、藩の火薬局を開設  
し、軍備近代化を担った。一方、  
ご飯が早く炊けるよう、独特のか  
まど（三岡へっつい）を考案し、  
藩内に普及させた。昨年、地元の  
左官工業組合が再現した。

毛矢に住む武士たちは登城のと  
きに足羽川を舟で渡っていたが、  
幸橋を築き便利にした。福井県は  
国体を前にして練舟を復活させた。  
公正は今も県民に愛し親しまれ、  
幸橋の麓には銅像が建てられてい  
る。



由利公正の銅像